

厚田区地域協議会 第7期総括並びに引継ぎ事項

第7期の厚田区地域協議会（以下協議会）では「近説遠来^{きんせつえんらい}」の具現化・実現に向け、道の駅石狩「あいろーど厚田」を地域振興の核として、更なる活用に向けた議論を進めたほか、自治連合会との連携により、道の駅オープンに伴う『厚浜区民パーティー』や『厚田 150 周年記念事業』の取り組みを共に執り進めました。

また、6期から引き継いでいる「カンパニー構想」の必要性を問う「アンケート会議」や「地域おこし協力隊活用検討委員会」など、地域住民と協議会委員で構成する下部組織を協議会内に設置して議論を進め、その結果を協議会へ答申するなど、協議会が中心となり住民の意思を反映した取り組みを図って参りました。

結果、アンケート会議では地域や年齢によって課題が違ふこと、地域での支え合いは少なからず必要と感じていることが確認でき、またアンケート会議からの提言として、若い世代・世帯の方々に住んで頂く、住みたくなるような街にする、そのためには、自分たちができること・地域で取り組むこと・行政において進めること、など区民と行政との協働の取り組みが引き続き必要不可欠であることが、あらためて確認されました。

次に、地域おこし協力隊活用検討委員会においては、2名の協力隊を新たに募集し4名体制とすることで、個々の活動・取り組みの他に4人のチームとしての目標を掲げ、将来的には区内に協力隊事務所を構え、区民との接点が数多く持てるような姿を目指し、今後も4名体制を維持していくことが協議会へ答申され、その方向性を確認しました。

今後も協議会を中心に自治連合会やより身近な町内会との連携を密にし『住民自治の推進』『協働の取り組み』を更に進めることで、近説遠来の具現化・実現に結び付くものと考えます。

次に、令和2年3月末を以って満了を迎える地域自治区のあり方については、平成30年度第6回から8回までの3回にわたって議論を重ね、地域自治区存続の有無に係らず、協議会としては今後も区民主体の「審議の場」の必要性が確

認されましたが、令和元年度第4回の協議会において、令和7年度まで5年間延長することが市より諮問され、全会一致で提案内容を承認し答申を行いました。

次に、若者の声を引き出す、活かす為の工夫として「座談会」を実施し、若い力の活用・必要性をあらためて協議会として認識しました。

今後は、全国的な課題である少子高齢化・過疎化を食い止める大胆な取り組み・アイデアが必要であると感じる一方で、一人ひとりが協議会委員としての役割を認識することが重要であると確認しました。

協議会で得た情報を地域と共に共有し、地域の声を一つでも多く拾い上げられるような「場づくり」を進めながら、委員としての役割である新たな地域振興のきっかけづくり・つなぎ役として、また、アンケート会議からも本気で向き合うトリガー（牽引者）の発掘が地域課題の解決や新たな地域振興を導き出すものと提言されており、今一度委員の役割を意識しつつ、区民の一員・一人として、地域振興に熱く向き合い執り進めて欲しいと願います。

厚田区が目指す将来の姿「近説遠来」の近説を、より身近に実感・共感できることが、住民同士が共に支え合う『共助』のまち、すなわち『カンパニー構想』の実現へと近づき、このことがアンケートに答えて頂いた厚田区民を始め、携わったメンバーに対する『応え』になると考えます。

『共助のまち・厚田』を合言葉に、次期の更なる飛躍を期待し、8期への引継ぎ事項と致します。

〈 7 期総括〉

◆ 7 期の取り組み ◆

① 近説遠来の具現化・実現に向け

→ 地域振興の『核』となる、道の駅石狩「あいろーど厚田」の活用を議論

② 自治連合会との連携

→ 道の駅 オープンに伴い「厚浜区民パーティー」

→ 厚田 150 周年記念事業

} 実施

③ 住民自治の推進

→ 地域住民と共に地域協議会の『下部組織』を設置

(「アンケート会議」「地域おこし協力隊活用検討委員会」)

※『協働』の取り組みが今後も必要不可欠であることを確認

④ 地域おこし協力隊の活用

→ 4 名体制を今後も維持して行くことを承認

⑤ 自治区存続のあり方

→ 区民主体の「審議の場」は自治区の有無に係らず、これからも必要

→ 5 年延長の諮問を受け、全会一致で承認

(令和 7 年 3 月末まで自治区延期)

⑥ 座談会の開催

→ 若い力の活用・必要性をあらためて確認

◆ 8 期への引継ぎ ◆

① 区民と行政の『協働』の取り組みは、必要不可欠

② 地域おこし協力隊 4 名体制の維持

③ 自治連合会との連携

④ 委員としての役割を明確に、活動を進める

⑤ 地域の声を拾い上げる『場づくり』

⑥ トリガー（牽引者）の発掘

⑦ 一人ひとりが地域振興に『熱く向き合う』

◆ まとめ ◆

① 近説遠来を『実感』『共感』できることが、『共助』のまち、『カンパニー構想』の具現化へと導くことに結び付くはず

(このことは、アンケート調査に係った多くの方々への『応え』となる)

② 近説がより実感できるまちづくりに向け、『共助のまち・厚田』を合言葉に、更なる飛躍を期待する